

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で一二枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

二一三 東京都文京区本郷二丁目一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

第三十六巻の最終号をお届けします。

原著論文一、研究ノート二、「史料と

の出会い」一、「医史学と私」二、資料二、その他を収載しました。「医史学と私」の欄は本学会に古くから貢献された先学に、御自身と医史学との関わりを語っていただき、あとに続く会員の道標とするために企画されたものですが、いずれも含蓄厚く興味がいけないと、多くの会員諸氏から好評を得ています。▼今回これに続く企画として三輪編集委員長より「史料との出会い」というテーマが提案され、編集委員大賛同。さっそく深瀬委員に依頼してモデル原稿ともいべきものを執筆いただきました。従来自分が扱ってきた史料との出会い、経緯について改めて考えてみると、また新しい観点が浮かび上がってくるように思います。逐次執筆を御依頼していく予定ですが、投稿も歓迎します。その旨記して御寄稿下さい。原著に近いものから簡潔な随筆風のもので、スタイルは色々あつてしかるべきと編集委員会では考えています(ただし投稿規定は順守下さい)。▼さる十月七日には本学会の生みの親、富士川游博士の没後五十年式典が順天堂大学で挙行されました。当日の江川義雄・岡田靖雄・長門谷洋治・富士川英郎・宗田一の諸先生方の講演内容は次号に特集を組んで掲載する予定です。御期待のほど。▼ちなみに、この式典終了後まもなくして富士川英郎先生の『富士川游』(小沢書店)なる御高著が上梓されました。いずれ本誌にも詳しく紹介されるでしょうが、併読されれば次号の特集もいっそう意義深いものになると思います。

(小曾戸 洋)